

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	三橋 伸夫（みつはし のぶお）		
現職名等	宇都宮大学 名誉教授		
アドバイスできること	○市町景観計画策定について ○農村景観について ○文化的景観について ○景観農業振興地域について		
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 1981 年～1990 年 （社）農村生活総合研究センター研究員 1990 年～2003 年 宇都宮大学助教授 2003 年～2017 年 宇都宮大学教授 2017 年～ 宇都宮大学名誉教授 （活動実績） 2004 年～2013 年 栃木県マロニエ建築景観賞審査委員会委員長 2004 年～現在 栃木県景観アドバイザー 2007 年～2009 年 農林水産省美の田園復興事業地区審査委員会委員 2008 年 那須町景観計画検討委員会委員長 2010 年～2011 年 高根沢町景観計画策定委員会委員長 2011 年～2019 年 栃木県景観審議会委員 2013 年～2017 年 宇都宮市景観審議会委員 2019 年～2020 年 真岡市景観計画策定委員会委員長 2020 年～2021 年 下野市景観計画策定委員会委員長 （資格等） 一級建築士 工学博士		
ホームページ・著書等	（ホームページアドレス） http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/plan/ （著書等） 景観づくりむらづくり、ぎょうせい、1993 栃木県農村景観形成ガイドライン、栃木県、1997 美の里づくりガイドライン、農林水産省農村振興局、2004		

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

地域の景観は、地域に暮らす住民、活動する企業や団体、そしてそれら暮らしや活動を支える行政などによる、長年にわたる積み重ねの成果です。それぞれの暮らしや活動が個別に為されるよりは、全体としてある方向性のもとに為された方が、１０年、３０年と時間が経過すればするほど地域の景観に差異が生じるのは、当然の帰結です。市町で取り組む景観計画は、言わば、暮らしや活動に関して事前に景観面で地域の共通認識をもち取組事項を定めることです。地域の景観面からの特徴を整理し、その良さを守り後世に伝えるためにどのような行動を今とるべきか、また、どのように住みよい地域を形成していくべきか、これが景観計画の役割であると言えます。

大切なことは、地域に暮らし活動する多くの人たちが、自ら地域の景観を守り育てる主体であることを自覚すること、できるだけ地域の将来像についての共通認識をもつことです。このことは、地域に対する愛着、誇りと密接に関わります。そして、地域の景観の良さがひいては、人々が住まいを選択する、あるいは、企業が活動の場を選択する際の基準のひとつになって、地域の活力を規定していくものと考えられます。

栃木県は、那須や日光などの山並みを北西に擁し、南東に那珂川、鬼怒川、そして、西に渡良瀬川が流れる豊饒の大地です。この土地に宇都宮、足利、栃木をはじめとして歴史ある都市が連なる、自然と人間活動の調和した活力ある地域です。私は特に山並みを背景にした農業景観、農村景観が好きです。この景観にアクセントを加える民家、大谷石蔵、そして長屋門。どこにでもあるようにいて、よく見ると栃木らしさが感じられる大切な景観です。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	荒井 歩（あらい あゆみ）
現職名等	東京農業大学 地域環境科学部 教授
アドバイスできること	○景観計画策定について ○文化的景観の調査・保存計画 ○景観まちづくりワークショップの実施 ○景観デザインへのアドバイス（都市景観・農村景観など）
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 1996（平成8）年 東京農業大学大学院農学研究科農学専攻（博士後期課程）修了 博士（農学） 1996（平成8）年 東京農業大学農学部造園学科助手 1998（平成10）年 東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手 2002（平成14）年 Writtle College（Essex, England）に1年間依命留学 2004（平成16）年 東京農業大学地域環境科学部造園科学科講師、准教授を経て現職 （活動実績） 八潮市景観まちづくり審議会委員／静岡県景観賞審査委員／静岡市景観アドバイザー委員／杉並区景観審議会委員／杉並区景観アドバイザー委員／目黒区景観審議会委員／目黒区景観アドバイザー委員／武蔵野市景観アドバイザー委員／茅ヶ崎市景観審議会委員／茅ヶ崎市景観アドバイザー委員／戸田市景観審議会委員／我孫子市景観審議会委員／埼玉県環境影響評価技術審議会委員／環境省風力発電施設に係わる環境影響評価の基本的考え方に関する検討会委員 など （資格等） 博士（農学）
ホームページ・著書等	（ホームページアドレス） https://www.nodai.ac.jp/academics/reg/land/ （著書等） 造園学概論（共著） 朝倉書店、新版地域環境科学概論（共著） 理工図書など

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

「人と環境の関係性のながめ」である景観を研究対象とし、都市景観から農業・農村景観まで、幅広いフィールドを対象に研究を行っています。特に伝統的な生業や生活の景である文化的景観に興味を持ち、景観区の設定手法や景観構造の把握手法の構築、生業・生活維持に基づく景観保全の仕組みの解明などについて調査をしています。景観研究は科学的・社会的アプローチをとる一方、研究対象地の環境に対する体験的感性が非常に重要です。人が住み暮らし続ける「生きられる景観」の科学的根拠を導くことが目標です。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	伊澤 岬（いざわ みさき）
現職名等	日本大学 名誉教授 太陽エネルギーデザイン研究会 名誉会長 水上空港ネットワーク構想研究会 会長
アドバイスできること	○景観・まちづくり全般 ○鉄道駅・ターミナルなどの交通空間のデザイン ○丘陵地や河川・運河空間のデザイン ○交通施設のユニバーサルデザインと観光ユニバーサルデザイン ○世界遺産のオーセンティシティ（真正さ）と景観 ○復興・防災計画 ○再生エネルギーとデザイン
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 日本大学理工学部建築学科・海洋建築工学科・交通システム工学科の建築・土木系3学科でのデザイン教育とデザイン実務に従事。 工学博士（日本大学） （活動実績） ・船橋日大前駅、駅前広場、アクセス道路のデザイン （鉄道建築協会作品部門最優秀賞・千葉県建築文化奨励賞受賞） ・大江戸線新宿駅、東新宿駅のデザイン （駅舎設計者指名プロポーザルコンペに当選） ・気仙沼市魚町・南町内湾地区復興まちづくりコンペ佳作 ・復興支援活動で強靱化大賞最優秀賞 （資格等） 一級建築士
ホームページ・著書等	（ホームページ） 太陽エネルギーデザイン研究会：http://nxc.jp/sdc/ 水上空港ネットワーク構想研究会： http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/seaplane/ （著書等） ・単著：海洋空間のデザイン 彰国社 1990 ：交通空間のデザイン 彰国社 2000 ：京都・奈良の世界遺産 凸凹地形模型で読む建築と庭園 実業之日本社 2017 ：「マスクをとってマチにでよう」までは…東京 2020 凸凹地形都市のデザイン 出版準備中

- ・ 共著：運河・再興の計画 房総・水の回廊構想 彰国社 1996
- ：交通バリアフリーの実際 共立出版 2006
- ：観光のユニバーサルデザイン
- －歴史都市と世界遺産のバリアフリー 学芸出版 2010
- ：3.11 復興プロジェクトの挑戦とその射程
- 建築と土木、エネルギーの融合の活動から 彰国社 2018

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

「思い」

土木と建築の融合が都市景観や国土景観創出に必須との考えから「デザイン」を切り口に、建築・土木系の3学科での教育・実務に携わってきた。

その成果が、活動実績で示した3つの鉄道駅の設計であり、最近では復興支援の一環として、復興まちづくりの提案を「土木と建築とエネルギー」の融合の中に、宮古市・気仙沼市・塩竈市・福島県富岡町・千葉県旭市などにビジュアルに提案。

さらにその延長として、南海トラフ地震対応のまちづくりを下田市や高知県の各都市での防災計画に協力している。

「好きな景観」

厳島海上社殿：

土木と建築の歴史的成果。800年にわたり海上に木造の社殿が存続しつづけたかの「技」を著書を通して解明した。

厳島は災害（台風・高潮）のたびにより強く、より美しく蘇ってきた。東日本の復興もそうあって欲しいと思う。

「栃木県の好きな景観」

- ① 日光東照宮：急峻な国土を象徴する境内は、地形の凹凸を匠に計画・造成し、現代の開発・造成の範となる好事例。丘陵地に立地する「東京薬科大学八王子キャンパス」や「静岡県立大学キャンパス」の設計に活した。
- ② 大谷石石切り場跡の地下空間：この空間性を実務で設計した「地下鉄地下駅」に環境装置体としてデザインした。
- ③ 栃木市の水系歴史都市
- ④ 足利市・佐野市・栃木市の歴史都市群
- ⑤ 生前浜田庄司氏に案内頂いた益子の工房群とその景観
- ⑥ ふるさと下野市からの鬼怒川と筑波山、日光連山の山並の景観。



地下鉄駅設計のイメージとなった
栃木県大谷石採石場の岩間からの
「光」と「緑」

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	岡田 一天（おかだ かずたか）		
現職名等	株式会社プランニングネットワーク 顧問 法政大学 かわ・まち計画研究所 大学院 特任研究員		
アドバイスできること	○景観・まちづくり全般 ○公共事業の景観計画、景観設計		
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 1978. 3 東京工業大学工学部（社会工学科）卒業 1980. 3 東京工業大学大学院理工学研究科（社会工学専攻）修了 1980. 4 株式会社アイ・エヌ・エー新土木研究所入社 1989. 10 株式会社プランニングネットワーク設立 （活動実績） ・印旛村景観計画、印旛村都市マスタープラン計画 ・青梅市景観形成計画 （景観形成基本方針、風景条例、青梅駅周辺地区景観形成基本計画） ・桑折町地域づくり計画 ・徳島市景観計画 ・多摩川（兵庫島地区）景観計画・景観設計 ・津和野川景観設計 ・旧北上川分流施設（脇谷水閘門、鴛波水門）景観設計 ・中筋川ダム景観設計 ・旧北上川河口かわまちづくり （資格等） 技術士（建設部門）		
ホームページ・著書等	（著書等） 景観用語事典（共著、彰国社） 都市の水辺をデザインする（共著、彰国社） ダム空間をトータルにデザインする（共著、山海堂） 都市を編集する川（共著、溪水社） ほか		

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

景観は、まち、地域に対する住んでいる人の思いの現れです。決して特別なものではなく、「自分たちのまちをどうしたいのか」「どんなまちに住みたいのか」ということが、地域の景観として現れてくるのです。

とは言っても、「どんなまちにしたいのか」はそんなに簡単な問題ではありません。そんなきっかけの一つとして、どんなまちにもある、身近な水辺の景観を考えてみるのが有効だと考えています。水辺は子供から大人まで、またこれらの人が一緒になって、快適な水辺空間のあり方を考え、その整備や利活用を考えることができる素材です。そして、快適な水辺空間の出現は、自分たちのまちを見直すよいきっかけになります。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	岡田 智秀（おかだ ともひで）
現職名等	日本大学理工学部まちづくり工学科・教授・学科長
アドバイスできること	○住民参加型の景観まちづくり ○景観まちづくりワークショップの実施 ○景観計画策定 ○水辺をいかした景観まちづくり など
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 平成10年3月に日本大学大学院理工学研究科博士課程修了、同時に博士（工学）の学位取得。その後、日本大学理工学部助手・専任講師、米国ハワイ州立大学海洋地球科学研究所・客員研究員を経て、日本大学理工学部まちづくり工学科・准教授、平成26年4月より教授となり現在に至る。 （活動実績）2021年現在 世界遺産富士山構成資産「三保松原」白砂青松保全技術会議委員 越谷市景観評価委員会委員長 戸田市景観審議会会長 静岡県景観懇話会公共空間高質化専門部会委員 千葉市建築審査会会長代理 埼玉県景観アドバイザー 越谷市景観アドバイザー 流山市景観アドバイザー 荒川区景観アドバイザー 静岡県海岸保全基本計画検討委員会景観担当委員 荒川区景観審議会委員 荒川区都市計画審議会委員 市原市都市計画審議会委員 御前崎市観光組織体形成業務アドバイザー 沼津市御用邸跡地公園保全活用計画策定委員 市原市五井地区将来ビジョンミーティングファシリテータ

土木学会景観・デザイン委員会論文編集委員会幹事

(受賞歴)

- (1) 2012 年 5 月：日本都市計画学会・年間優秀論文賞「海岸空間とその背後空間を一体的に捉えた新たな海岸まちづくりに向けて－米国ハワイ州の“海岸線セットバックルール”に着目して－」
- (2) 2006 年 7 月：日本沿岸域学会出版・文化賞「都内運河の新たな活性化方策としての“フローティングレストラン”実現化プロジェクト」
- (3) 2003 年 1 月：日本建築学会関東支部論文コンペ・最優秀賞「都市臨海部を核とした環境配慮型都市再生のパラダイム」
- (4) 1999 年 7 月：日本沿岸域学会・論文賞「東京港臨海部におけるパブリックアクセスに関する評価」

(資格等)

博士（工学）

ホームページ・著書等

(ホームページアドレス)

<http://www.town.cst.nihon-u.ac.jp/research/>

(著書等)

「住民がつくるおしゃれなまち」日本都市センター

「都市の計画と設計（第 2 版）」共立出版

「海外ウォーターフロント開発事例」（財）港湾空間高度化環境研究センター

「日本沿岸域学会編：沿岸域環境事典」共立出版

「環境と資源の安全保障 47 の提言」共立出版 ほか

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

ところ変わればその地域の成り立ちも大きく変わってきます。

他地域の借り物ではない、その地域独自の歴史・文化・景観資源等をあぶり出し、その地域ならではのご当地型景観まちづくりを地域住民の皆様とともに展開していきます。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	角館 政英 (かくだて まさひで)
現職名等	ぼんぼり光環境計画(株) 代表取締役 東京都市大学工学部客員教授
アドバイスできること	
○照明環境	○都市計画
○建築景観	○まちづくり など
経歴・活動実績・資格等	(経歴) 1964 年東京で生まれる。 日本大学理工学部建築学科卒業、同大学院建築学専攻、修士課程修了 1989 年 株式会社ＴＬヤマギワ研究所 1990 年 株式会社ライティングプランナーズアソシエーツ (LPA) 1996 年 ライトフィールドアーキテクト 設立 2000 年 ぼんぼり光環境計画株式会社 設立 2009 年 博士(工学)取得、論文要旨 2017 年 東京都市大学工学部客員教授 (活動実績) 2021 年現在 千代田区、静岡市、世田谷区、八王子市などの景観、街づくりアドバイザー 駅前再開発(甲府駅、富山駅、上州富岡駅など)、複合施設(あべのハルカス、新宿東宝ビル、フクラスなど)、宿泊施設(志摩観光クラシック・ザ・クラブ、シェラトン沖縄サンマリーナリゾートなど)、公共施設(かみす防災アリーナ、気仙沼内湾施設など)、あかりのまちづくり(大洗まちあかり、池袋グリーン大通り周辺改善、静岡市清水エリア夢あかり、釜石・気仙沼景観避難誘導計画、おぶせ 2017 あかり物語、東伊豆町(稲取、熱川)照明改善、大阪・光のまちづくりアクションプラン)などに参加する。 (資格等) 照明家, 博士(工学), 一級建築士

ホームページ・著書等

(ホームページアドレス)

<https://bonbori.com>

(著書等)

照明学会誌 2015「仮設建築群地域における避難誘導照明と屋外環境照明の整備：一岩手県陸前高田市を対象として－」

丸善出版 2014. 03「コンパクト建築設計資料集成 都市再生」建築学会編

影国社 2013. 09「行為から解く照明デザイン」

おおの・むらづくり 21 推進会議「大野村キャンパスビレッジ-大野村地域づくりの軌跡と展望」

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

私は、照明デザイン・照明計画を通じて、生活環境や都市空間をよりよいものにするため、照明技術の向上や環境づくり等、幅広く活動しています。

主な活動内容は以下のとおりです。

【人間中心のデザイン設計】照明設計は常に使用者の体験や安全性を最重視しています。具体的には、照明が人々の活動や心理状態に与える影響を深く理解し、視覚的な快適さや機能性を兼ね備えた設計を特徴としています。特に公共スペースや居住空間において、人々が安心して心地よく過ごせる環境を作り出すために、細部に至るまで注意を払っています。

【地域性の尊重】自身の作品に、地元の文化や歴史をしっかりと反映させることを重要視しています。照明デザインにおいて地域固有の要素を効果的に組み込み、地域特有の素材や伝統的なデザイン要素を取り入れることで、プロジェクトがその土地のアイデンティティをしっかりと感じさせるものとなるように心掛けています。このようにして、デザインはただの照明以上のものとなり、地域に根ざした文化的なメッセージを伝える役割を果たすことができます。

【社会的な場所づくりへの貢献】公共施設や都市空間における照明デザインを通じて、社会全体の快適さや安全性を向上させる活動をしています。例えば、夜間の歩行者の安全確保を目的とした街灯設置や、観光地の美しい夜景を作り出すための照明設計などが挙げられます。これにより、地域のコミュニティの活性化や観光資源としての価値向上にも寄与しています。また、まちづくりのアプローチとしてもあかりを有効に扱っています。東北被災地などでの、高台避難誘導を促進する環境整備をはじめ、地域全体の特性を生かした夜間景観をつくりだしています。

【持続可能性への取組み】環境への配慮は、デザイン哲学において重要な位置を占めています。環境保護や省エネルギーを意識した設計を心掛け、持続可能な素材や最新の技術を駆使することで、長期的に環境に優しい照明ソリューションを提供することに注力しています。これによって、環境負荷を軽減しつつ、高品質な照明を実現することができると考えています。

【照明デザインの革新】照明デザインを単なる光の演出にとどまらず、環境や人々の生活の質を向上させる重要な要素として捉え、デザインを構築しています。特に、建築物や公共施設における照明の使い方を提案し、空間の美しさだけでなく、機能性や安全性を向上させるデザインを手掛けています。

【教育と啓蒙活動】照明デザインの専門的な知識を活かし、教育者としても活動しています。照明技術やデザインの重要性を広めるために、セミナーや講演、ワークショップを通じて若い世代にその重要性を伝えています。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	小花 伸子（こはな のぶこ）		
現職名等	小花塗装(株) 代表取締役社長		
アドバイスできること	○広域色彩計画 ○景観に配慮した建築物・構造物・公園・道路・外構等の色彩設計 ○色彩心理に基づいた公共案内・公共交通・サイン等の色彩計画		
経歴・活動実績・資格等	（活動実績） 【栃木県】 H14 栃木県景観条例制定委員 H15～H23 栃木県景観審議会委員 H16～H17 栃木県屋外広告物審議会委員 H16～ 栃木県景観アドバイザー H14～H15 栃木県新交通システム導入基本計画調査委員 【宇都宮市】 H10～H26 宇都宮市まちなみ景観賞選考委員 H16～H17 宇都宮市新交通システム方策調査検討委員 H18～H19 宇都宮市景観計画策定懇談会委員 H19～ 宇都宮市景観審議会委員 H19～H21 宇都宮市大谷の文化的景観保存計画検討委員 H24～ 宇都宮市景観アドバイザー （資格等） カラーコーディネート2級 1級建築施工管理技士		
ホームページ・著書等	（ホームページアドレス） http://kohana-tosou.com		

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

日本人はもともと自然と一体で暮らしていたので、景観について特別考えなくても調和していた。人工的な材料や塗料など異文化が入ってくるにつれ、自己主張の表現が苦手な日本人はちぐはぐな景観を出してしまった。

景観とはそこに暮らす人々の心のありかたを映し出すものである。訪れる人は景観からその土地の文化・生活を無意識に感じ取る。訪れた先の快不快には、景観も大きく関わってくる。

栃木県内において、豊かな自然を生かし、その土地土地の暮らしに調和した、訪れる人々をおもてなしの心で迎える景観を創造出来れば、栃木県の発展にもつながっていくと思われる。

色彩は、素材に並ぶ重要な景観要因である。色彩が人間に与える心理的影響は、多大なものがある。美しさだけではなく、場所・用途に合わせた安全性・快適性を考慮した色彩計画が必要になる。

人々の暮らしには様々な感情や想いが内包している。街の色彩もただ色を揃えるのでは現実感のない景観になってしまう。実際、人工的に美しい開発都市で自殺者が多発した例もある。整然・雑然・静寂・躍動と、相反するものを併せ持って調和させてこそ、暮らす人が快適な、訪れる人は何度でも訪れたい魅力ある街になるのではないだろうか。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	清水 和也（しみず かずや）
現職名等	(株)アーバンデザインコンサルタント取締役 計画部部長
アドバイスできること	○景観計画、景観条例の策定 ○地域の景観に配慮した建築物等の色彩計画、基準づくり ○屋外広告物の規制、誘導の考え方 ○地域の景観資源を活かした景観まちづくり
経歴・活動実績・資格等	（経歴、活動実績等） 九州芸術工科大学 環境設計学科 卒業（S62 年卒） （活動実績） 那須塩原市景観審議会委員（H22.4～） （資格等） 一級土木施工管理技士 一級造園施工管理技士 技術士（建設部門／都市及び地方計画）
ホームページ・著書等	（ホームページアドレス） （著書等）

私の景観への「思い」、「好きな景観」など



景観は誰にでも入り込むことのできる分野です。「もの」を見て何かを「感じる」ことが景観の第一歩。でもあまり入り込んでしまうと、旅行に行っても駅前の看板や建物の色、ファニチャーのデザインなどが気になって、観光気分が薄れてしまいますが…。

写真は、横浜市中区にある、かつて新港ふ頭の物資輸送に使われた臨港鉄道の遺構を活かした「汽車道」です。手前に写る白い橋は、明治40年に建造されたトラス橋で横浜市の歴史的建造物に指定されています。また、レールの先、ゲート状の建物の先には赤レンガ倉庫が見えます。このように、古い物を新しいまちの中に取り込み、それを印象的に見せる工夫が施されています。

興味を持ってまちを眺めると、身近なところにも「好きな景観」を見つけ出すことができると思います。

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	堀 繁（ほり しげる）
現職名等	（一社）まちの魅力づくり研究室 理事 （東京大学 名誉教授）
アドバイスできること	○商店街・観光地・温泉地等集客地の活性化 ○道の駅・店舗・旅館等集客施設の活性化・演出 ○街路・道路・公園等公共施設の魅力づくり ○景観まちづくり ○景観計画 ○景観デザイン ○景観理論
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 昭和 51 年東京大学卒。環境庁自然保護局主査、東京大学農学部林学科助手、東京工業大学工学部社会工学科助教授、東京大学アジア生物資源環境研究センター教授などを経て、平成 30 年 4 月より現職 （活動実績） 山形県鶴岡市あつみ温泉のまちづくり、同尾花沢市銀山温泉のまちづくり、三重県熊野市の公共施設（活性化施設「駅前特産品館」、「お綱茶屋」、「鬼ヶ城センター」）、福島県下郷町道の駅「しもごうエマツト」、長崎県大村市商店街街路、長野市中央通り（善光寺表参道）、新潟県湯沢町「道の駅みつまた」、山形県立健康の森公園（天童市）、同最上川総合公園（寒河江市）、福岡市伊都の緑道公園ほかの整備・設計指導。 茨城県常陸太田市中心部、千葉県木更津市駅前、北海道黒松内町中心市街地拠点ほかの整備構想提案。 大分県杵築市、東京都立川市、千葉県成田市ほかの景観計画策定指導など 国土審議会、歴史的風土審議会、国会等移転審議会の各専門委員、埼玉県景観審議会会長、東京都立川市景観審議会会長、千葉県成田市景観審議会会長、宮城県仙台市景観審議会会長など （資格等） 博士（農学）

ホームページ・著書等	
(著書等) 景観からの道づくり（2008、大成出版社）他	
私の景観への「思い」、「好きな景観」など	
地域を良くしたいという熱意がある皆さんのお手伝いできればと思います。	

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	増山 正明（ますやま まさあき）
現職名等	足利大学 名誉教授
アドバイスできること	○景観まちづくり ○景観計画の策定 ○都市空間のデザイン ○街並み形成 ○夜間景観の計画 ○中心市街地の活性化
経歴・活動実績・資格等	（経歴） 足利工業大学 工学部 教授 東京理科大学、同大学院、東京工業大学大学院修了、（株）大林組 日本建築学会会員、日本都市計画学会会員、照明学会専門委員 （活動実績） 栃木県足利市景観委員会委員長 栃木県佐野市都市計画審議会会長 栃木県佐野市景観審議会会長 栃木県栃木市建築審査会会長 栃木県栃木市都市計画審議会会長 群馬県太田市景観審議会会長 など （資格等） 博士（工学） 一級建築士
ホームページ・著書等	（著書等） 「パブリックアメニティ」ぎょうせい、 「景観照明－景観に配慮した照明の使い方」景観材料推進協議会 「景観照明 part2－わが街の夜景創出」景観材料推進協議会 「景観照明 part3－新しい商店街照明」景観材料推進協議会 「地域性とアーバンデザイン」日本建築学会 「ライトアップされた建築物のファサード構成要素の立体感と輝度変化特性」 日本建築学会論文集 「ライトアップされた建築物の評価と輝度分布に関する研究」日本建築学会論文集

「地方都市における市街地周囲の山並みの緑視構造」日本都市計画学会研究論文集
「地方都市における緑評価指標の設定に関する研究」日本都市計画学会研究論文集
「Luminance Variation and the Sense of Perspective for the Facade Components of Lit-up Building」(「ライトアップ建築物のファサードの立体感と輝度変化」)
Proceedings of 26th Session of CIE
「Relation between Evaluation of Illuminated Building Facade and Luminance Distribution」(「ライトアップ建築物のファサードの輝度分布と評価」)
Proceedings of Building and Urban Environment Engineering
「A Research on Lighting Technique of the Illuminated Buildings in Japan」
(「日本におけるライトアップ建築物の照明手法に関する研究」)
Proceedings Lux Pacifica 2005
「Study on Variations in the Visibility of Buildings Facade when lit with Floodlights」(「ライトアップされた建築物のファサードの見えの変化に関する研究」)
Journal of Light & Visual Environment, The Illuminating Engineering Institute of Japan
「A Study Concerning the Characteristic of Gazing at Illuminated Buildings」
(「ライトアップされた建築物の注視特性」)
Light & Engineering,
など

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

景観とは、地域の自然、歴史、文化等と深く関わり、人々の生活との相互作用によって形成されてきた地域やまちの環境の眺め（表情）と言えます。したがって地域の固有性が色濃く出ている景観はより魅力的に感じられます。

景観づくりは、まず地域やまちに存在している景観的価値を発見してみんなで共有することが大切です。そして、それらを守り（保全）育てていくことが求められます。

一方、良好な景観を保全することのみならず、新しい景観をつくる（創出）ことも重要です。長い歴史の中で形成されてきた地域景観に、新しい価値をつくり出すことは将来への活力につながります。

景観づくりの対象は、小さな景観要素と言われるものから、大景観である眺望景観まで空間的広がり（スケール）は多様です。ぜひ重層的な景観づくりへの取り組みを期待します。

今日、特別に優れた景観を有するまちだけではなく、ごく普通のまちで個性的な景観づくりが強く求められています。ぜひ出来るところから取り組んでいただきたいと思います。